

## 第13期 社会教育委員の会議（第12回） 会議録

● 開催日時 令和4年9月30日（金） 午後2時00分～4時10分

● 会場 教育委員会室

● 出席者

社会教育委員（8人）

大島 英樹	野川 春夫	竹高 京子	大畑 廣行
工藤 宜	鈴木 弥生	風澤 明子	熊谷 晴弘

事務局職員（4人）

葛飾区教育委員会事務局参事、生涯学習課長	佐藤 秀夫
生涯学習課学び支援係長	佐藤 吉裕
生涯学習課学び支援係（社会教育主事）	与儀 睦美
生涯学習課学び支援係	黒澤 幸恵

オブザーバー（2人）

生涯スポーツ課長	柿澤 幹夫	出席者 計14人
生涯スポーツ課事業係長	張替 武雄	

### 次第

#### 1 報告

(1) 葛飾区教育振興基本計画策定検討委員会

#### 2 議事

(1) 「記録と提言」の検討

(2) 今後の会議の進行について

(3) その他

### 【配付資料】

○第11回会議録(案)

○教育振興基本計画策定検討委員会関係資料(抜粋)[資料1]

○各課の取組[資料2](既配付)

○委員の提言案 [資料3]

○第13期社会教育委員の会議スケジュール(案) [資料4]

○かつしか区民大学情報誌「まなびぷらす」Vol.32

○関連事業チラシ

初心者体験講習会(柴又学び交流館)、区民大学講座チラシ(生と性、算数講座、葛飾学講座、かつしか区民大学特別講演会)、忍者修行、かつしかスポーツフェスティバル、かつしかふれあい RUN フェスタ2023

— 開会 —

**○事務局** 皆様、こんにちは。もう9月も終わりですが、まだ汗ばむような陽気の中、お集まりくださいましてありがとうございます。

ただいまから第12回社会教育委員の会議を始めます。

本日は、委員のご欠席のご連絡は頂いておりません。

また、傍聴人はいらっしゃいません。

資料についてご説明いたします。

一番上に「次第」を置きました。次に、前回の第11回の会議録の案です。こちらをご確認の上、修正箇所がございましたら、10月14日の金曜日までに事務局までご連絡を頂ければと思います。なお、第10回の確定版の会議録は、既に葛飾区ホームページに掲載されておりますので、御覧ください。

次に、資料1は、葛飾区教育振興基本計画策定検討委員会で配付された分厚い資料の中の1枚を、竹高委員から提供いただきました。

資料2は、各課の取組で、お送りしたものと同一ものです。

資料3については、提言案を出してくださいと、急にメールでお願いしてしまい、申し訳ありませんでした。本来は開催通知と同時にそのご案内をするべきところを、失礼しました。それにもかかわらず、委員の皆様から、前回出していただいた提言案をバージョンアップされたものを出してくださいました。

資料4は、今後の会議スケジュールです。

それから、事業のご案内としまして、区民大学情報誌「まなびぷらす」や関連事業チラシも最近のものを置かせていただきました。

また、本日、工藤委員からスポーツ関係の催しのチラシを2枚提供されました。

以上の資料が、皆さんございますでしょうか。

それでは、この後の議事につきましては、大島議長に進行をお願いします。

**○議長** それでは、皆様、こんにちは。キンモクセイが香って秋が来るのを感じます。駅から来るまでの間に町会の掲示板が幾つかあるので、のぞきながら来るのですけれども、催しの案内のポスターが多くて、いろいろな催しが動いているのだな、と感じるところでした。今日のまとめに皆さんたくさんのご意見を頂いていますので、後ほどお話しいただければと思います。

## 1 報 告

### (1) 葛飾区教育振興基本計画策定検討委員会

では、早速ですけれども、次第に沿って進めたいと思います。

1番目、「報告」となっていて、「葛飾区教育振興基本計画策定検討委員会の報告」ですが、こちら、僕も野川先生も加わっていますが、社会教育委員の代表としては

竹高委員にお願いしていますので、竹高さん、ご報告をお願いいたします。

**○竹高委員** 議長と副議長が出席されているのに、話すのは恐縮です。

今回の会議で、アンケート調査をするのに当たって、社会教育関係者調査票、幼稚園・保育園等保護者調査票、小学校・中学校教員調査票、小・中学生保護者調査票、幼稚園・保育園等教員調査票の5つにアンケート用紙が分かれているので、その質問事項に対する意見をまとめたものが、この資料1になります。

私は、19番と21番のお話だけさせていただいたのですが、それに関しては、△マークで戻ってきました。その内容は別の部署でもしているということで、取り入れられませんでした。

ただ、今回の委員は、皆さん意識がとても高く、また、どちらかというと幼稚園の方が、もっと葛飾区の教育に関わっていきたい、もっとよくしてほしいという意識の高い方がいらっしゃいます。やはり時代なのか、ジェンダーレスに関しての質問も多いです。

アンケート調査は、9月の末頃実施するということでした。その後、アンケートの集計を取っていただいて、自由記述の意見も踏まえたくうえで、基本計画の検討を進めていくのが次回で、12月中旬の開催となっております。

補足がありましたら、お願いいたします。

**○議長** ありがとうございます。「葛飾区教育振興基本計画」ですが、通称が「葛飾教育プラン」ですね。学校教育と社会教育の両方の、今後の葛飾区の教育の在り方、方向性を示していくという会議です。竹高委員さんから今、ご報告いただいたのは、そのための基礎資料となるアンケートを取ろうというところなのですが、たたき台としてのアンケートでたくさん意見が出て、アンケートの文言の修正で1回会議が増えているような状況です。

委員の皆様にも、今後の成り行きも注視していただければと思いますし、アンケートがお手元に届くかもしれませんので、たくさんのご回答を頂ければと思います。

いかがでしょうか。何かご質問やご意見がございましたら。

**○副議長** 別の自治体でも、ほとんどの振興計画の基になるのがこういうアンケート調査の結果なのですね。ところが、例えば「8年後、ここに向けてどうしよう」と言っているながら、アンケート調査で聞いていることは、今のことしか聞いていないので、何の意味もないではないか、と大きい声で言ってしまったのです。これは多分委員が考えるのではなく、区のほうで考えなければいけないと思うのですが、葛飾区をいくつかのエリアに分けるのか、あるいは所得別に分けるのか、またはファミリー構成で分けるのか、という「説明変数」を明確にしておいて、その上で現状のことを聞いて、8年後にはどういうふうになってほしいかということ聞かないと、今はどうだったと聞いてもあま

り役に立たないような情報となってしまう。それから、自由記述で回答してもらおうというのが他の地域でも多いのですが、そんな無駄なことはしないほうがいいよ、という意見も申し上げました。本来、原案をきちんと作った上で委員会を招集しないといけないということです。

出席された校長先生が「前例踏襲型の質問ばかりしてももう意味がないのではないか」ということをおっしゃって、非常にインパクトのあるご意見だったのです。やはり葛飾区で社会教育も含めて残念ながら分からなかったのは、8年後の小学生あるいは中学生あるいは保育園、幼稚園に行く人口の人数構成になっていくのかということがないから、何をどうしろと言われてもなかなか将来像が見られないなという感じがしました。

**○議長** 計画というのは、未来に向けて作る場所ですけども、その未来への取組のところが欠けているというところですね。

**○副議長** やはりコンサルに振ってしまうところがあるようで、そのコンサルがどの程度優秀か、真剣に取り組んでくれるかで成果が変わります。別の市区でやっていたものをほとんど変更せずを持ってきて、字面だけ変えて、何百万円も持っていかれてしまうようなことではまずいですよね。

たまたま今週、別の市区で同じような委員会があつて、委員全員から異論が噴き出してやり直しとなってしまった。お金もエネルギーも時間も全部無駄になってしまうので、すごくもったいないですね。

**○議長** 会議を進行させようとする事務局のほうで、今日終わった朝ドラのように、逆算的な組立てになってしまふところがあるのかなと思っていて、そこへきちんと問いを投げかけてみると、このままでいいのかなという思いが噴き出したところだと思うのです。

アンケートは大幅に変わることはできませんでしたが、未来志向で、という野川先生の気持ちをきっちり伝えていき、現状認識の話だけではなくてという形での計画づくりにもして行ってほしいということをお願いしていました。

きっと今の言葉は、振り返ってこの会議のまとめにもつながっていこうと思いますので、未来につながるようなお話になればと思います。

**○大畑委員** 以前、区の基本構想と基本計画策定の会議に出させてもらったときに、今の先生の言葉とそっくり同じことを私も感じたのです。30年後、どういう形の区を目指すのだという方向性に関する話があまりできなかった。基本計画とか、大きい長期のビジョンを立てるときには、しっかりしたビジョンの指針となるものを作ってもらわないと意見の持っていくようがない。現状の不満ばかり言っても始まらないのではないかなというのを、すごく感じたのです。

長期計画を立てるのには、その事務局がしっかりした先のものを見いだして、多少の失敗、批判があったとしても、その方向にどういう形だったら向けられるか意見をまとめたほうが良いような気がしますね。あまりにも現状の意見ばかり聞き、30年後それがどういうふうになっているか分からない、そんな会議をやってもしょうがないのかなと、それは非常に感じました。

**○議長** 機会を捉えて、ぜひそういう言葉を伝えていきたいなと思います。

**○竹高委員** そこは人数も多く、声を発する方が偏っていたりすると、8年後の葛飾区の教育に対してのお話をしたいところが、足踏みというか、どこかに特化した話、横道にずっと行ってしまったまま、どうにもならない状態になって終わってしまう、そんなイメージもあります。

**○大畑委員** それはすごく多いです。声の大きい人の話が、どうしても長引いてしまうのですよね。違う会なのですが。

**○竹高委員** 「人のふり見て我がふり直せ」かなと、私も思いながらお聞きしているのですが。

**○議長** 皆さんそれぞれの出身母体、団体や組織があって、そこから見えることをきちんとお伝えしたいという思いもあるので、余計にそうなりがちです。そういうときに、全員で一緒に見なければいけないものは何かを確認していく、ということが必要なのかなと思います。きっとそういう役割を僕がしなければいけないのではないかなと思っていきます。

**○竹高委員** よろしくお願ひします。

**○議長** 議長はどんどんご提案をくださる方なので、余計に頑張ってみようようにします。

では、今のこの教育振興基本計画策定検討委員会についてのご報告は一旦区切りにしたいと思いますが、よろしいですか。ありがとうございます。

## 2 議 事

### (1) 「記録と提言」の検討

**○議長** それでは、続いて、2の「議事」に入っていきたいと思います。

(1)と(2)があり、1番目は「『記録と提言』の検討」です。先ほど事務局からもありましたけれども、各課でまとめてくれた記録を基に、委員の皆様には時間が限られている中お読みいただき、さらにご意見をご提出いただきまして、ありがとうございます。

ます。それを基に、今日、今後の提言のまとめというところにつなげていきたいと思いをします。

初めに、各課から提出された記録そのものについて、ご意見や指摘を頂いて、場合によってはちょっとその書き方を工夫していただくというようなことも含めて、もう一度ぐらいやり取りができたらいいのかなと思っています。まず、お手元の各課の記録のほうからご発言を頂ければと思います。

手元の一番上のものから一緒に見ていくということでもよろしいでしょうか。初めは地域教育課の記録になっているかと思っています。こちらについてご意見、あるいはご質問、今お答えできないかもしれませんが、確認したいようなことがあれば声を頂ければと思いますが、いかがでしょうか。地域教育課は事業がたくさん並んでいて2枚にわたっているようですけれども。

**○竹高委員** 質問なのですけれども、これ各課にお願いしたときに、「実施や中止・延期の基準や基本的な考え方」というのは、質問事項として入れていただいたのですかね。

**○事務局** はい。そうです。

**○竹高委員** 「新たな取組や工夫した点」というのも。

**○事務局** はい。ただ、削除しても加えても結構です、という形で出しました。

**○竹高委員** 了解です。この「基本的な考え方」という欄が、各課とても何か堅めな書かれ方をしていたなと思って、ガイドラインみたいなものだったりというのが、イメージとして書きたいことを書いていただけたらよかったかなと思いました。

**○議長** そうですね。僕らはこうして、どういうふうをお願いをして、どんなことが聞きたいなという思いでこれを見られるのですけれども、記録として最終的に第三者が見たときにも分かるかなというような点でもご意見頂くといいのかなとも思います。

いかがですか。僕も1ついいですか。例えば今、地域教育課のこの一覧があるのですけれども、レギュラーの予定どおりいったところとイレギュラーになったというところが、文字を読んでいくとその中止のところと延期だとか何とかというのが分かって、色合いが若干濃さが違うとは見えるのですが、実際には、カラーでもっとはっきりと違いが目で分かるのでしょうか。あるいはあまり分からないですか。

**○事務局** 白黒になるので、分かりづらくなると思います。

**○議長** 何かその辺、いいアイデアがあったらなと思うのですけれども。

**○事務局** 今統一されていないので、なおさら分かりづらいと思うのですが、中止のときは例えばかなり濃いベタで、実施のときは白抜きとか、何かそういうお約束で統一したほうがいいかなとは思っているのですけれども。白黒なので、濃淡ぐらいでしか表せないのです。

**○竹高委員** これは中止になってしまったものに関しては、上にバツをつけるとか、米印(※)をつけるとか。実施できなかったイベントやそういう行事みたいなものはつけるとか。

送っていただいたのはカラーでしたが、それはそれでまたいろいろな色が入り過ぎていて分かりづらかったのです。なので、白黒でも全然いいとは思うのですが、やはりきちんと開催できたものとできなかったものというのは分かったほうがいいのかと思います。

**○事務局** そう思います。

**○竹高委員** かえて、この矢印の中を真っ白にしてしまったのが実施できたものとするとか、それぐらいの濃淡がついてしまってもいいのかなと。グレーの矢印は開催できなかったものとか、それぐらいはっきり分けてしまったほうが分かりやすいかもしれないとは。ただ、その中間というのも、縮小開催みたいな、そんなのもあったりすると。

**○議長** そういう意味では、少なくとも変更のあったものは変更のあったもので色が変わるように。

**○竹高委員** 地域教育課は、オンライン開催とかにも濃い色でつけていたりして、その統一性がやはりなかった。

**○事務局** 中間色がたくさんあっても分かりづらくなってしまうので、白抜きとグレーとベタの3種類ぐらいでにしましょうか。それで、全課統一させたいとは思いますが。

**○竹高委員** そうですね。

**○議長** 地域教育課だけちょっと分量が多いのですが、まとめたりピックアップしていただいたほうがいいのか。でも、積極的に削ってしまう必要はないのではないでしょうね。

**○大畑委員** 少年の主張大会のところで、会場予約にも矢印が入っているのですが、必要でしょうか。実際事業として動いている部分とはちょっと違うような感じがするので、会場の予約だけだったら、矢印は要らないのですかね。

**○議長** 2020年では、それが使用取消しとなっているというのが伝えたい部分でもあるのではないですかね。その大きな施設は1年前とか、下手すれば1年半とか、そういう前から調整をしていくという意味では、やはりそれがイレギュラーになっていくということを表現されているのかなと思うので。

**○竹高委員** 難しいですね。

**○議長** 多分というか、完全に書き方を統一するというのは難しかりょうとは思いますが、それで、それぞれ各課の強調したかったことというのが、要はこのそれぞれの表現の中にもあろうと思うので、読み込むに当たってよく分からないところをご指摘いた

だくのがいいのかなとは思っています。

**○竹高委員** 生涯学習課は、まだまだ書くことがたくさんあると思うのですが。

**○事務局** かなりスリムにしました。

**○竹高委員** 大きく動いているものだけポイントとして出しているのかなとは思ったのですけれども。

**○事務局** そうですね。あまり細かく書くとかえって分からなくなるかなと思ったので、生涯学習課はかなり絞って書きました。

**○竹高委員** 地域教育課のこの事業名は、PTAに関わっていた私は全て分かるのですが、少年の主張のところをごちゃごちゃし過ぎて見えます。

**○大畑委員** 見づらいですね。

**○竹高委員** そうですね。でも、これはなくしてください、とは言えないですかね。

**○議長** やはり1年半ぐらい前に予約があって、大会があってという形にもなっているし、今、起きたところですぐには変わらないのだよ、というのが表現されているのではないかなと思います。

**○竹高委員** これ、このままの大きさを印刷はできるのですか。

**○事務局** はい。

**○副議長** 全体的なことですが、最初に「企画・開催準備」と書いてあって、開催した。計画立案というのがなくて、あるいは開催場所を取っているのであれば、場所を取るといことも含めて、「はたちのつどい」は、出発は9月から始めて、いつ終わったということですよ。それで1月だった。その次の年も同じだとすると、この他は何をしているのだろうと思われてしまいませんか。事業と事業の間はいろいろ空いていて、その下の少年キャンプというのも空いていて何も入っていないと、何やっていたのだろうと逆に言われてしまうのではないかなと、一瞬思ったりするのですが。

**○竹高委員** でも、「はたちのつどい」は本当に成人式のときなので、キャンプは夏の本当に2泊3日のみなので、やはりその間は空きますよね。1年に1回なので。多分、それ以外のときにこの少年の主張大会の準備だとか、ほかのイベントの準備だとかをなさっているんで、これだけ幾つも事業名があっても、間が空いているものはそれなりにあるというのが実情です。それで、担当している方は何人もいて、「はたちのつどい」は皆さん勢ぞろいでお手伝いして下さったりという形になるので。

**○副議長** そういうことだと、事業と事業の間は、間を空けないでくっつけてしまったほうが、いろいろなのが同時進行しているのですよということが分かりやすいのでは、なんて思ったりするのですけれども。

**○竹高委員** 全てを合体させるということですか。



○副議長 はい、合体させる。

○竹高委員 でも、合体させると、多分何で動いているのかが分かりにくくなってしま  
うかもしれない。

○副議長 そうではなくて、間を詰めてしまうということです。

○事務局 詰めてしまったほうが見やすいか、空いていたほうが見やすいかというのは、  
難しいところですね。

○副議長 どっちかということなのですから。そうすると、少年キャンプが終わる  
と今度は「はたちのつどい」のほうに移行しているということが見えてくるような。

○事務局 地域教育課は3係でいろいろな事業をやっている、その係の中で幾つかの事  
業を持って動いていて、課としてピックアップするとこの事業ということなのです。生  
涯学習課はもっと、この5倍以上の事業数があるのですけれども、ピックアップして4  
つだけ出しているということなので、そこが誤解されて生涯学習課はこれしかやってな  
いのかと思われてしまうと困ってしまいます。

○竹高委員 でも、この表を比べると、地域教育課のほうの仕事しているのかと、そう  
思われてしまうのですよ。だから、私も、「こんな少しじゃないよな」と思いながら生  
涯学習課を見ているのですけれども。

○事務局 はい。すごく特徴的なものだけをピックアップしただけなので。

○竹高委員 そうですね。

○副議長 ですから、例えば主要5事業とか4事業として、それはもう統一したほうが  
いいですね。

○竹高委員 例えば事業としては大きいものを4つだけ挙げていただいて、その下に、  
そのほかこういう事業もやっていますというのを書いていただく形。

○事務局 でも、その他の事業というのが、すごくたくさんなのです。事業一覧表にし  
ても何枚にもなるくらいに。

○竹高委員 そうですね。では、ここが一番下のところに米印(※)で「これが全て  
の事業ではありません。そのほかたくさんしておりますが、書き切れませんので」みた  
いな。

○議長 それは「記録」というパートの一番初めにきちんと表現したいと思います。

○竹高委員 そうですね。

○議長 全部そこで挙げておくというのも1つですけれども、少なくともその主要事業  
をピックアップして例示するというのを踏まえて。でも、なかなか皆さん、自分の  
やったことしか見えないけれども、串刺しで同時期にいろいろなのをやっているのだと  
いうことを少なくともイメージを持っていただけるように例示した、そんなようなこと

が扉のようなところであれば、分かっていたのではないかと思います。

今のご意見を踏まえると、地域教育課も1ページに収まるようにそろえていただいたほうが公平な形になりますね。確か、依頼のときも「4か5事業ぐらい」というお願いをしたのではなかったのでしょうかね。

**○事務局** はい、そうです。

**○議長** そういう意味では、ぜひ書きたいというところだったのかもしれませんがけれども、厳選いただくようにということにしましょうか。

**○大畑委員** 地域教育課は、どちらかというと出来上がっている団体を管理運営しながら事業を進めているというイメージがあるのです。だから、例えば「はたちのつどい」の手伝いのメインは青少年委員がやっているのですね。少年キャンプ、ジュニアリーダー、子どもまつりに関しては、区子連を中心として担っているのです、同じくくりの中でやれるのではないかなど。少年の主張大会、地区委員会の委員研修は、地区委員会という団体の中で進めている。PTAの広報研修だけではなく、家庭教育、ノーテレビ・ノーゲームもPTA関連の事業として捉えていけば、PTAというくくりの中で表現してもらえる。団体がメインでやっているところにあるのであれば、その団体をメインとしたところの事業として内訳を書いていったほうが見やすいという感じはします。

**○議長** ありがとうございます。その課ごとのその事業実施の性格というものもここから見えてきているということ表現できれば、数に差があっても後でちゃんとエクスキューズができるのかなど。そういう事業を直接実施するだけではなくて、その実施をサポートするとか連携して一緒にやるとか、そういう形のところなのだということがこういうのを見ても明確になるねということが表現できれば、それはこれを読む意味が出てくるかもしれないですね。

**○大畑委員** 1個1個の事業として捉えていくと、今言ったように、例えば少年キャンプとか、それからジュニアリーダーの研修も、子ども会というくくりの中での事務局の活動、内容なので、1つの欄の中に全部入れても分かるのではないかなという気がするのです。そうすると、事務局として何をやっているかという部分では、その団体をフォローしながら率先してやっていくという、事務局の立場がはっきりするのではないかなど。生涯学習課と地域教育課の一番の違いはそこにあるような気がするのですね。

**○生涯学習課学び支援係長** 見ていただくと一目瞭然ではないですかね。地域教育課はやはり実行委員会という言葉が非常に多いですね。これは基本的にはやはり団体と一緒にやっているから、そこは区の主催ではなくて、団体と一緒にやっているということが出されることになるのではないかと思います。

それで、事務局からそれぞれの課に依頼をした際には、主要な事業をピックアップし

て、ということは当然申し上げているわけですがけれども、今、大畑委員がおっしゃられたように、事業の性格が全然違うので、その事業についての特色が見える形になっていたほうがやはり表としてはふさわしいでしょう。ただ、事業の説明は載せられないわけで、どこまでそのニュアンスが伝わるかというところなのだと思いますけれども、伝え方として、例えば地域教育でいえば、事業をピックアップしてくださいと言われるより、多分その団体ごとにというか、例えば地区委員会が関わっているもの、子ども会が関わっているもの、青少年が関わっているものとまとめたほうが多分表現しやすいだろうとは思っているので、その中で複数事業があるものは特徴的なものをピックアップしてくださいとやれば、それは地区委員会でいえば少年の主張なのか何なのかとか、子ども会でいえばジュニアリーダーなのか子どもまつりなのかとかという特徴的なところをそこでピックアップしてもらうようにすれば、これはスリム化ができるだろうと思います。

だから、地域教育課でいえば、子ども会育成会連合会、青少年育成地区委員会、青少年委員会、わくチャレというふうに分けてしまえば。

**○事務局** PTAもあります。

**○生涯学習課学び支援係長** あとPTAか。

ただ、その複数の事業を1つの欄でまとめてしまうとごっちゃになってしまうので、それはやめてもらってセレクトしてもらったほうがいいと思います。

**○竹高委員** そうでなければ、もうこれ2枚とも全部出していただいて、ただ、その事業名の上かなんかに、そのくくり分けをきちんとはっきりする。これだけ団体に関してのことがあるので、切れなかったのかなと思う形のものにするかですね。

**○事務局** そういうご意見を地域教育課に申し上げて、1枚にまとめられるのか、どうしてもこういう形になるのか確認というところでいいですか。できれば1枚にしてほしいのですが。

**○竹高委員** 2枚ありますけれども、学校地域応援団も入ってないし、まだまだ載せてないものがあるのですよね。

**○事務局** そうです。これでも載っていないものがあります。

**○竹高委員** 載せてないものもあるのだったら、もう少しスリムにさせていただくのがいいかもしれないですね。

**○議長** 書かれなかったものがあるということは理解しているというのは、ここできちんと受け止めておければ、まとめなどほかの部分でそれをフォローしていけるのかなと思います。

**○竹高委員** 記録をつける前説のところに「様々な事業がたくさんある中でも、大きいところだけを載せさせていただきました」という形の文章をつければいいのではないで

すか。

**○大畑委員** 地域応援団はまとまっているというのではないですから、その地区ごとでやっていますから。

**○竹高委員** そうですね。本当にばらばらで表現できないから載せていないものもありそうですね。

**○大畑委員** こういう区全体に関わるような大きい事業の部分に関して、どこの団体が先頭になっていますよというのを書いてあげれば、3つにまとめてしまっても、その中で見られるかなど。キャンプやジュニアリーダーの育成だとか。それを3つを1つにしても、1つのラインの中に入れてしまってもいいのではないかなという気がします。

**○竹高委員** 多分どの課の方のものでも、自分がちょっとでも関わったものが載っていないければ、「何でやっているのに載ってないのかしら」と思われる方は中にはいらっしやと思うので、それは仕方がないことだと思うので、全部載せるかそうでないか、そうでないなら、1枚にするというのも1ついいのではないかと。

**○議長** ありがとうございます。では、地域教育課のほうにお願いしてみてください。

**○事務局** はい。

**○議長** とても大事なことを共有しながらいけていると思いますので、まずは地域教育課に確認を、というところでしたけれども、その流れを持って生涯学習課のほうも見ていただいたような感じになるのでしょうか。

生涯学習課、それから博物館まで、また取り立ててご意見があればと思いますが。

**○竹高委員** すみません、この白抜きで書かれているイベントは、「中止」と書いてあるものとそうではないものがあるのですけれども、白いものも普通に開催されていたものなのですかね。

**○事務局** 開催されたものです。「中止」と書いてないものは開催しました。

**○竹高委員** 中止と書いてあるものだけが、ここに載っていない企画したものとかはないということなのですか。

**○事務局** 、ここに載っている事業においては、中止されたものは中止と書いてあるものだけです。

例えば「かつしか教室」も、「中止」とあるところが中止になっています。

**○竹高委員** そういうことなのですね。分かりました。

**○事務局** ここの区民大学などで、「中止」と書かれていないで実施されているものの中でも、実は延期になってここでやったという講座も結構あるのですけれども、そこまですべて細かく書いていません。緊急事態宣言のときにやる計画はあったけれども、年度末に実施したりという実態があるのですが、それは一時ここだったけど、こっちに

なったというのは載せていません。

**○議長** その「区民大学の運営委員会」のところで、他にはない言葉遣いで、2020年、緊急事態のところで「活動自粛」という表現が入っているのですけれども。

**○竹高委員** 場所が使えなくなったのですか。

**○事務局** 区民運営委員会の会議自体も自粛、集まってもらうことも自粛したということだと思います。ストップしてしまったというか、当初の、学校が休校になった時期だと思うのですが、それから5月までは地域コミュニティ施設も休館になり、集まることが難しかったときですね。そのときは、区民運営委員さんに集まってもらうことも自粛したと言っていました。

**○議長** その「自粛」というのは、役所のほうから「自粛」をお願いした？

**○事務局** いいえ、生涯学習課や区民大学係が「自粛」したのですが、「自粛」という言葉が良いかは分からないですが。

**○議長** 何かすごく難しいのだなと感じます。

**○事務局** 中止してくれ、と言われて中止したわけではなくて、決めるのは各課に任されていたのです。区としては、館を閉じるということについては「閉じてくれ」ということもありましたけれども、事業をやるやらないは主幹課に任されているので、それを「自粛」でなく「中止」と書いても良いかと思います。

**○議長** いやいや、でも、せっかくこの言葉を使っているの。

**○生涯学習課学び支援係長** 他の事業と整合性を取るのであれば、「中止」でしょうね。

**○事務局** 「自粛」は、誤解を招くかもしれません。

**○議長** 何か意味があるのだったら、残しても。

**○生涯学習課学び支援係長** いや、そこは多分ないです。

**○竹高委員** これ、学校もストップしたときですよ。

**○事務局** そうです。

**○竹高委員** 本当に図書館も博物館も全てストップして。

**○事務局** できないという感じ。

**○竹高委員** できないですね、実際。それで、会社に出る人も、なるべく。

**○風澤委員** ステイホーム状態のときですよ。

**○竹高委員** そうですよ。そのときはもう未知のものだったので、何がよくて何が悪いかも一切分からなかったの。

**○鈴木委員** 人があまり出歩いてないとき。

**○議長** だったら、やはり「自粛」と書こうと思った意味があるのかな。

**○生涯学習課学び支援係長** いや、多分、委員さんや事務局から、「自粛」という意図

が働いたことは多分ないと思いますよ。実態としてはやれない。やりようがなかった。

**○鈴木委員** 実際、区民大学で企画している側の人間なので。そのときにもうやる場所がないし、集まることもできないし、高齢者も来られない。「自粛」ではないですね。

**○大畑委員** この「自粛」という言葉、この時期、いろいろな意味で行政から言われましたよね。やっている人たちは、人間としては中止なのだけれども、いろいろな場所も使えなくなって、「自粛してください」という感じの社会通念の中での言葉として言われていたのが多かった気がしますよね。今はもう「中止」とははっきり出ていますけれども。

**○事務局** 「自粛」なのか「中止」なのか、区民大学係に聞いてみます。

博物館はどんな感じでしょう。多分空欄になっていて事業はやってない。

**○大畑委員** 閉館ですよ。

**○竹高委員** 違います。これはリニューアルの閉館か。いや、やはり緊急事態宣言が2月の末から5月の末まで出たので、この間を閉館という形にしたのです。

**○事務局** そうですね。閉館は閉館ですね。

**○大畑委員** そうですね、2月からですね。

**○事務局** 事業のところは空白になっていて、別に自粛とか何も書いてないけれども、実質自粛に近い感じですよ。

**○竹高委員** でも、この博物館や図書館は、もう国からストップがかかったの。

**○鈴木委員** そうですね、博物館、美術館とかも全て閉館していましたよね。

**○竹高委員** いや、生涯学習課ができないのが理由ではなくて、もう国からストップがかかったのと同じことですよ。

**○議長** 細かく見ていくと微妙な違いがあるというのが、よく表現の中から分かるわけですよ。「閉館」というのは、見た目閉じているけれども、実際はそこに出勤していたり、裏で少しでもできることをやっている場合もあるし、それに対して運営委員会というのは、区民の方を集めてという形になるから、それはまた、できなさの形が違うのではないかと。

**○事務局** 区民運営委員会としての活動を「自粛」したのか。

**○生涯学習課学び支援係長** いや、どうなのでしょう。事務局が招集しているので、委員さんが独自にやるやらないを決めているわけではないので、そこも明確に何かしらその理由があってやめているという場合の表現を、「自粛」というよりは、例えば「施設休館のため中止」とか、そういう理由が分かるような表現を加えるか、シンプルに「中止」にするか。主催者が判断をしたことなので。

**○竹高委員** だからこれは、「活動自粛」というよりは、「緊急事態宣言中で活動停

止」ですよね。

○生涯学習課学び支援係長 そうですかね。

○事務局 では、「停止」が良いかどうか、聞いてみましょうか。

○議長 よろしくお願ひします。

○竹高委員 あと、何の問題もなくやったのかなと思われると何かなとは思っているので、小さくて本当に大変だと思うのですが、2月とか4月には「次年度実施予定」とか入っているではないですか。そういう形でずれたのだとすれば、延期してこの日になったというのも実際記録として残しておいたほうがいいのではないかなと。

○事務局 区民大学ですね。

○竹高委員 はい。まだちょっと幅に余裕がありそうなので、2行か3行になっても。これがどこかに本当は開催する予定だったのが、ここに移っているのですよということが分かってもいいのかなとは思っているのですが。すごく見やすく、シンプル過ぎて何の問題もなかったのかなみたいにとられたら、何か皆さん延期になったりとか、一生懸命そういうことで対応していただいていたので。

○事務局 ちょっともしかしたら延期になったのもあるのかもしれないので、聞いてみます。

○竹高委員 はい、お願いします。

○生涯学習課学び支援係長 例えば2022年度の辺りでは、「縮小」や「次年度実施予定」、あと「1月30日を延期」とか、そういうのは書いてあるので、基本的に延期とか、時期をずらしたりとか回数を減らしたりというのは表現されていると思います。

○竹高委員 そうなのですか。

○生涯学習課学び支援係長 2021年度以前のものについては、もう1回確認しますが、基本的には変わってないのだと思います。

○竹高委員 分かりました。それで言うと、2022年は「区民総合芸術祭典」も、人数制限とかも何もなしで行ったということですよ、

○事務局 いいえ、人数制限とかいろいろありました。

○生涯学習課学び支援係長 そこは表現したほうがいい。

○竹高委員 そこは表現していただいたほうが記録としては忠実かなと。

○事務局 いろいろな意味でかなり2021年とかはあったので、文章として書くのも。

○竹高委員 この「かつしか教室」は、「1班ごとに1時間半ずつ活動」とか、「遠足中止」とかきっちり書いてあるので、「ああ、こういう形だったのだな」というのがすごく見やすいと思うのですが。

○事務局 文章のほうに書いたほうがいいですかね。

- 竹高委員 いや、ここに載せてしまったほうがいいと思います。
- 生涯学習課学び支援係長 「人数制限あり」とか。
- 竹高委員 そうですね、短い表現で。
- 生涯学習課学び支援係長 例えば「検温、消毒等実施」という感じで書いたら。
- 竹高委員 検温、消毒は当たり前だと思うので、いいと思います。「延期」であったり「人数制限」であったり。
- 事務局 「会場変更」とか。
- 竹高委員 はい、「会場変更」であったり。
- 事務局 「無観客」とか、いろいろありましたので。
- 竹高委員 そうですね。やはりオンラインとかそういうのにもすごく力を入れてやっていただいたと思うので、そういうのも載ってあったほうが記録としては。
- 事務局 それは多分、写真展は写真展、短歌大会は短歌大会で、ここも団体と共催でやっているの、その団体の意向に沿って微妙に全部違うので、書くと膨大になることが予想されるのですが。でも、書ける範囲で書きたいと思います。
- 竹高委員 そうですね。
- 事務局 これだと何かすんなりやったように受け取られてしまうので。
- 竹高委員 そうですね。皆さん、いろいろご苦労されていると思いますので。
- 事務局 実際に工夫しながら、形を変えながら実施していますので。
- 議長 今ご指摘のあった「かつしか教室」は、事業の中身は何なのか、初見の人にも分かるように括弧で書いておいてもいいのではないですか。
- 事務局 「知的障害者のための」とかですか。
- 議長 はい、短い言葉で。
- 事務局 「知的障害者の大人の方の日曜教室」なのですけれども、月に1回集まる事業です。
- 議長 そうあれば、意味が通じると思います。
- 竹高委員 この「かつしか教室」は分かりやすいと思うのですが、ただ、全く知らない人にはそういうことをやっているということが分かるといいかなと。最初の、例えば4月の部分に括弧して入れてしまうと、枠をちょっとそこだけ広げるとか、そんな形で説明が入っていたほうが区民の方には分かりやすいかなと思います。
- 事務局 はい、分かりました。
- 議長 ありがとうございます。では、いかがでしょうか、博物館。
- 竹高委員 博物館、書かれ方は生涯学習課と地域教育課と全く違うのですけれども、これはこれで分かりやすいのではないかなと思って見ておりました。



**○議長** プラネタリウムの試行錯誤がすごいな、というのがよく分かりますよね。

**○大畑委員** こういう事態の中で、よくこれだけ開催できましたよね。

**○事務局** 開けて閉館して、開けて、緊急事態になると閉館して、というのは明らかに分かりますね。

**○竹高委員** 私の文章にも書かせていただいたのですけれども、リニューアルオープンした後に、ビニール手袋を配って触れるように工夫なされたというのがすごくインパクトが強くて、そういうふうに動かれていたことというのもやはり書いていただけたらよかったのかなと思って、私は自分の文章の中では書いたのですけど。

**○事務局** それは、文章のほうで書いたほうがよいですか。

**○竹高委員** この2階のリニューアルオープンをした後に、多分その展示室とかで触ったりするのが、お子さんとか来ても触れないので、ビニール手袋を配るようにして触って感じていけるようにという形で配られたというお話をしてくださっていたと思うのです。

**○事務局** そうですね。

**○議長** 大勢で聞くということというのは、漏らさなくできるということなのですね。大事な取組というのを聞き漏らさないで残せればなと思うので、ありがとうございます。

では、生涯スポーツ課はいかがでしょう。

**○副議長** 生涯スポーツ課のほうは、一番上の施設の開館状況というところが、閉まっているところだけ書いてあるのですけれども、その前の博物館の一番上と同じように、通常であったら通常と書いてあるので何時から何時までとか、あるいは開館時間を短くしたのであれば、そのように記載すると見やすいのではないかなと思うのです。

**○事務局** はい、分かりました。

**○竹高委員** これでも細かく入れるスペースがこの2月から5月の間とかすごく短いところにたくさん入れなければならないなど。2月から3月ですよ、細かく、「通常営業」、「屋内施設利用休止」。

**○副議長** それであれば、ほかのところはもう平常にやっていたのだったら、平常にやっていたと出しておけばいいと思うのです。

**○竹高委員** そうですね、開いているところを、きちんとね。

**○副議長** それと、オリパラのことをあまり書いてないのですよね。オリパラにどう関わったのかというのが、どこかへ入ってくるといいと思います。

**○生涯スポーツ課長** そうですね。会場を練習会場で使ったりとか、そういうところはありませんでしたので、水元体育館とか、あとはクライミング施設とかも練習会場で使っているところはありましたので、その辺も入れていくように変えます。

**○竹高委員** イベントでは、「聖火リレー葛飾コース中止」とか、ありますね。

**○生涯スポーツ課長** はい。聖火リレーなんかはうちの主催ではないですが、こういった形で表記できるかどうか、工夫してみます。

**○副議長** 全期はオリンピック・パラリンピックで、生涯学習はどう変わるかがメインテーマだったので、やはりそれはちょっと独立させて、どういう流れだったのかというのをやっていただけるといいのではないかなと思います。

**○議長** そうですね、それはそれこそページを改めてやってもいいぐらいかなとは思いますがよね。

**○副議長** ちょうど先月、オリンピックの開会式の1周年記念があったのですよね。そこでイベントがあって、10月15日が、たしかパラリンピックの聖火か何かのことで、江東区のお台場のところで聖火の採火をする式典があるのです。東京都としては、レガシーという名目でいろいろなイベントをやっていこうとしているので、葛飾区は一緒にやるのかどうか別としても、どういう流れをくんでいたのかについて入れたほうがいいのではないかなと思いました。

**○議長** そういうオリンピック後の取組を。

**○生涯スポーツ課長** ブラインドサッカー協会というところと、日本山岳クライミング協会というクライミングをやっている日本の団体があるのですが、そういうところと連携協定を結んで、スポーツの振興を進めていきたいと思いますというところは、その結んだものが今年度に入っても教室をやっていきましょうとか、大規模な大会をやっていきましょうということは、引き継いでいるものはあります。レガシー的なところでは、そういう協定を結びましたよというところは入れていくことは可能だと思いますので、それで、22年度でどんな事業をやりました、ということを入れることは可能だと思います。

**○副議長** オリンピック・パラリンピックのときと、その後のレガシーというのを書くで見やすいかなと思います。

**○事務局** はい、分かりました。

**○竹高委員** この「コロナ禍での取組」というところも、1波、2波以降、「接種会場」とか、こういうふうに書いてあるのはすごく流れが分かりやすいと思うのです。それでいて、それを踏まえたところで、前期でいろいろなレガシーであるとか勉強してきたことなどをここにセットしてくっつけられると、やはり前の2年間、前の1年間ぐらいですかね、そのとき勉強したことも無駄にはならないのかなと思います。

**○竹高委員** 生涯スポーツ課のところで、野川先生が「レガシー」をお書きいただいて。

**○議長** ぜひよろしく願いいたします。

**○副議長** はい、頑張ります。

○議長 難しいところでしたけれども、前期から引き継ぐ形での2期目ということなので、少しでもそういうふうに反映できるといいなと思いますので、よろしく願いいたします。

○生涯スポーツ課長 はい、分かりました。

○議長 では、図書館のほうはいかがでしょう。

○事務局 博物館のように休館等の状況を矢印で書き直してもらったほうが見やすいでしょうか。

○竹高委員 そうですね。

○副議長 真っ黒になってしまっている。

○竹高委員 ビジネスセミナーのところも縦に書いていただいたほうが見やすいですね。

○事務局 そうですね。

○生涯学習課学び支援係長 多分縦のほうが分かりやすいかもしれないですね。

○竹高委員 縦と横が一緒にあったとしても、別にそれは分かればいいと思うので。

○事務局 少なくとも1個1個分かれていたほうがいいですね。

○竹高委員 そうですね。何か記号かマークでビジネスセミナーイコール「丸ビ」にするとか、それも分かりにくかったら「リハーサル」と「本番」だけ入れていただくとか。

○事務局 全部ビジネスセミナーだから、いちいち「ビジネスセミナー」と書かなくてもいいですよ。

○竹高委員 そうですよ、それ入れなくてもいいですよ。

○竹高委員 でも、「連携セミナー」と違うのかな。「連携」がついているのとならないのがありますね。「ビジネスセミナー本番（オンライン）」というのと「ビジネス連携セミナー本番」という。

○事務局 それなら連携セミナーは連携セミナーで棒を2本にすればいいのかなと思います。

○竹高委員 そうですね。

○生涯学習課学び支援係長 そのほうが分かりやすい。

○竹高委員 「連携セミナー本番」だけならそのほうが。「連携セミナーリハーサル」は「リハ」にしてしまえばいいわけで。例えば「開催中止」だったら「中止」のところは色を変えたほうがいいかもしれないですね。

○議長 そうですね。

○竹高委員 そうでなければ、一番下のところの第2回の開催を中止にしているのであれば、中止を全部この黒枠にしようとか。

○事務局 全体に、中止はこういう黒枠にすれば良いかと。

○竹高委員 そういう形にするとはっきりしますよね。

記録として、やはり一番残したいのは図書館の「休館」の部分だと思うので、そこをちょっとやはり大きく。

○事務局 そうですね、大きくして、矢印で示しましょう。

○竹高委員 この黒塗りのところは、黒くなくていいですよ。

○議長 では、ご指摘いただいたところをお伝えいただければと思うのですが、目玉になっていた電子書籍サービスがいつ開始したか、が無いですね。ポンと入っているだけでもいいので、その辺お願いします。

○事務局 資料2には書いてありますが、いつからとは書いてありませんね。

○竹高委員 多分コロナ前からあったけれども、その冊数を増やしたのだと思うのです。

○議長 なるほど。何かギアチェンジしたところが分かれば、資料1の時間の流れの中に入るといいかなという要望があったことをお伝えいただければと。

○事務局 はい。

○議長 いかがでしょうか。一通り今各課の記録を一緒に見ていくことができましたけれども、すごいですね。やはりみんなそれぞれのところでいろいろな努力されたことをまとめて見ると、その思いの丈が詰まっているので、きちんとこれを酌み取っていくことは、最後の僕らの仕事なのかなと思いますので、担当課へのご連絡、今日の記録を踏まえて事務局のほうからお願いしたいと思います。

残りの時間が限られてしまったのですが、委員の皆様からそれぞれ提言の案というのを示していただいていますので、お一人ずつご紹介を頂いた上で、前回の議事録の一番最後のほうにもあったかと思うのですが、もしできればそれを皆さんそれぞれの意見のところから吸い上げる形で各担当課に属したまとめ責任者の分担というところまでいければなと思いますので、進行にご協力いただければなと思います。

では、資料3を基にそれぞれの皆様からご紹介を頂ければと思います。書いてあるところは目を通せばと思いますけれども、特に強調点ということをお願いして、どこのまとめがいけそうかなというようなことも頂ければ。重なるようなところがあれば調整していくような形で考えたいなと思います。

○大畑委員 本当に感想としてしか書けなかったもので、こんなふうになってしまったのですけれども。

生涯学習課に関わる場所は、ほとんど区民に直接的にアプローチできる活動が多いものですから、時期に応じたいろいろな活動が瞬時にできていくのかなという感想は持ちました。

ただ、地域教育課に関しましては、これは逆に言うと、課よりも先にあった団体をか

なり引き連れて運営しているという状況なものですから、先ほどもちょっと申し上げましたけれども、その団体との連携で新しい時代にどういう形が望ましい地域に広める教育なのかということで臨んでいくのには、大きい団体をいきなり動かすのは大変だという思いがあると思うのですね。青少年委員会というのは毎月定例会として勉強会をやっております。なおかつ、その地区で大体3人か4人、学校の代表ということで集まっていますので、その人たちをもっともっといろいろな情報とか新しいデータを示しながら地域に広めて、地域教育課で抱える多くの団体を持ち上げていく底力になってもらう、そういう方向での力の入れ方を地域教育課のほうで率先してもらいたいなというのは気持ちの中にあっただので、こんな文章になりました。

**○議長** そうすると、皆さんの意見の集約の担当としては、地域教育課でしょうか。

**○大畑委員** はい。青少年育成地区委員会のほうにも出ていますので、分かりやすいかなという感じがします。

**○議長** 皆さんからもう1回伺った後に調整はしたいと思いますが、一度そんなふうにさせていただきます。

では、次は竹高委員さんに、お願いいたします。

**○竹高委員** なかなか思ったことは書けなくて、文章は難しいなと思いながら、各課の方が書いていたものの文章の下に、やはりこの自分たちが考える意見を入れていくほうがいいのだろうなと思って書いたのですけれども、とても私、本当に丸い感想にしかなくなくて、文章が下手なのですが、皆さんの書体を頑張って学習し、どこの課でも大丈夫ですので、最後でいいです。

**○議長** 分かりました。ありがとうございます。

それでは、工藤委員、お願いします。

**○工藤委員** いや、全部見て、結局は各課とも世間と同じで、コロナで暗中模索しながら頑張ってやってくれたなというのを感じて、これから少しずつ回復してくるのでしょうかけれども。提言とか何かいった場合、これから、今現在のところで取組が終わっているなど。これから先というのはどういうふうやっていくのかと思っています。葛飾区で今有名になっている幼稚園の問題とか、1人の職員に負荷がかかり過ぎている部分とそうではないところがあると思うのですが、余裕がないとやはりそういうミスを犯す。ミスをした結果、何億円とかになってしまいます。そのところをいいバランスに取らないと、もう1回よく見ないと駄目かなと思います。

部活動顧問指導者のことは例として出しました。部活動の時間帯というのは、たかだか2、3時間だと思うのです。でも、その間に19項目の縛りがある。安全面ではちゃんと器具を点検しなさいとか。そういうのをやっていたら、2、3時間で終わるわけが

ない。だから、それはブラック企業みたいなものかなと考えるのです。

そうすると、その1人の人は追い詰められてくる。だから、なり手がない。そこを改善していかないと駄目なのかなと思います。今、なり手がない、なり手がないという人たちは、そういう仕組みになっているからなり手がないのです。だから、そこを改善していかないと駄目かなと。書き上げた後で、特にそう思いました。

せっかく提言を出すのだったら、先々のことを考えなければ。今、便利になっていますが、100人でやっている仕事がコンピューターとかそういうものを入れることによって半分になったら良いけれども、多分バランスが悪くて、負荷がかかっている人とか、そういうところを見直したほうがいいのではないかなと思います。

考え方によりますけれども、私が前いた会社は生産工場だったのですが、2億円の機械を1台入れて効力化を図ろうと。でも2台入れたのです。それは1台が万が一壊れたときにもう1台で何とかなると。供給責任です。多分葛飾区の場合は1台入れてそれで終わりなのかな。壊れたら、壊れましたで、そこで終わってしまうかなと。例えば、壊れたときにどういう対応を取るかとか、そういうものを含んでいかないと駄目なのかなと考えました。

**○議長** 個人の具体的なご経験のところとかみ合わせながら、提言は別に未来予測みたいな話ではないので、これまでのところを踏まえながら僕らが学んできた中でこう思ったところというところでもいいかと思うので。当たり外れみたいな話ではないですから。ここから見えたものとして今、工藤委員さんが思われたところにまとめをしていただけたらいいのかなと思うのです。生涯スポーツのところだと、その部分も書きやすいのかなと思いますが、いかがでしょう。部活についても、ぜひ。

**○工藤委員** たまたま例がそれであるだけです。

あと、前も話した中学校の部活動の地域移行化は、すぐにはできない話なのだけれども、やはり各学校で困っていることを良い方向に変えていかなければならないと思います。みんな困っていることをなおざりにしてしまうから、ずっとそのままになってしまうというか、そろそろそういう困り事を精査して、良いほうに行かなくてはならない。

だから、お金もかかるかもしれない、人もかかるかもしれない、教育や指導する人の手当てもかかるかもしれない。というのはこの頃感じるところです。

**○議長** そうしたら、工藤委員は生涯スポーツ課について、ほかの皆さんのお書きくださった言及も踏まえて、取り組んでいただけたらと思います。

では、次は鈴木委員さんですね。

**○鈴木委員** 経験豊富でよくご存じの方がいるので、きっといい提言がたくさん出てくるのであろうと思いましたので、私などが言うことはなかったのですけれども、もうこ

ここにあった皆さんのいろいろな課のやっていることは初めて、こんなことまでやっていたのかというのがすごくよく分かって、ただこれ以上にもあるということで、ふだんでも大変だった中、今度コロナになってどれくらい大変だったかということがすごく分かったということがありました。

全体的に言うと、葛飾区の人がどれくらい「広報かつしか」を見るのかというのが分からず、駅などにありますけれども、ちらっとは見ても、自分の家のポストに入っても、ちらっと見て、ごみ箱に行ってしまうこともとても多いのかなと思うことがあります。自分の興味あるところだときちんと見ると思いますが、独身だったり子どもがいないとか何とかという人はあまり見てないと思うのです。でも、もっと知ってもらうことが大事だと思うので、ここにちょっと書かせていただきましたが、皆さんにいかにして知ってもらうとか、参加していただくか、それで地域の交流とかが始まります。

私はあまり参加したことがなかったのですが、区民大学の運営委員をやらせていただいたときに、初めて参加者がお年寄りばかりだということにショックを受けましたし、災害の講座も、若い人でなくてお年寄りが多い。若い人が助けてあげなければいけないのに、何でもっと来てくれないのかなと不思議に思いましたし、どうにかして若者を引っ張り出すような、参加してくれることを考えて、少しでも若い人の力を、と考えました。

年齢関係なく皆さんが参加できたり、地域の交流、活性化ができたらと思って、個人的には町内会で何かやりたいと班長さんに問いかけようかなと思ったりして、隣のアパートの若者のお兄ちゃんたちをどう引っ張り出すかという何かイベントをやりませんかというようなことを、班長さんなんかに言ってみようかなぐらいの狭い範囲で考えました。

それなので、提言なんて、おそれ多くて言えないのですけれども、最後に書いた、ちょっと余談でしたけど、この祭りとか何かイベントだと参加しやすいものがあると思うので、これから葛飾区も話題になるようなものがあると皆さん興味持っていただけると思うので、そういう何かイベントができれば、どなたか考えていただけたらと思いました。

提言になっていなくて、感想でした。

**○議長** ありがとうございます。情報提供というところでは、「生涯学習課公式note」というものを始めたとおっしゃっていましたが、その後いかがですか、僕はnoteというのはあまりイメージが分からないのですけれども。

**○生涯学習課学び支援係長** 例えばホームページとかツイッター、フェイスブックも含めて、こういうことやりますとか、こういうことやりましたという報告とかPRの部分はそのツールがあるのですけれども、そこにどんな思いがあったのかとか、関わってい

る人の思いはどうかとか、そういった裏側的な情報はなかなか今のその3つのツールの中では表現できないので、そういったことを発信していくことを目的にnoteを活用して、定期的に事業情報載せるというのは続けてきていますので、効果がどれくらい出るかというのは一朝一夕では分からない話ですけども、やはり継続をしていくというところで今は頑張っているという感じですね。

**○議長** ツイッターなんかよりボリュームが取れるところで。

**○生涯学習課学び支援係長** 基本的にはボリュームが相当ありますので、高齢者の方々への知名度は非常に低いかもしれませんが、若い人たちでそのスマホとかパソコンを使いながら情報を探している人たちにとっては、細かいところまで分かるというところと言うと興味関心の幅が広がるというところはあるかもしれませんね。

**○議長** 今までのブログみたいな、そのアーカイブ的なものとしてはどうなのですか。

**○事務局** 情報としては蓄積されていくものなので、そこは続けて見ることができる利点もあります。

**○議長** 何か電車の中とかで、皆さんLINEやっているとか、スクロールして過去に近づいていくのがありますけれども、時間を遡ったりというのというのは一直線だと面倒くさいのかなと思って、その辺がクリアできるというのかなと思うのですね。

**○生涯学習課学び支援係長** そうですね。ブログよりもカテゴリー分けができたりとか、そういったカスタマイズも一部できるので、そういう意味では選びやすいジャンルやカテゴリーを作ったりということで、自分の興味関心のあるところに飛んでいくというのはできると思います。ずっと引っ張っていかないと過去のものを見られないという情報だと、自分がどこを選んでいいかわからないという話になってしまうので、そこはnoteのよさはあるのだと思います。

**○議長** 鈴木委員さん、生涯学習のところで、まとめにチャレンジ頂けないですか。

**○鈴木委員** 私で良ければ。

**○議長** まずは皆さん同じことを言いますけれども、まとめのトップバッターというか、最終的にはみんな意見すり合わせていくということで担っていただければと思います。皆さんが書いてくださったことなどを基にしながら書いてくだされば、ということで、よろしく願いいたします。

それでは、すみません、ちょっと強引な感じで申し訳ないですけども。

次は、お名前が風澤委員さん、お名前が出ておりますので、よろしく願いします。

**○風澤委員** 各課の事業の記録というのを見させていただきましたが、どうしても小学校の立場で子どもとの関わりが多い、いろいろたくさんあるのですけれども、やはり私の中ではこの地域教育課の中での文書で記述された中のわくわくチャレンジ広場事業な



どに着目いたしました。

このコロナでかなり学校差もあるのですけれども、活動の中止や縮小というところで、民間が入っているところもありますが、地域の方が中心に立ち上げたわくわくチャレンジ広場事業なのですが、地域の方もだんだん高齢化したり、またそこに新しい方がうまく入れ替わっている組織もあるのですけれども、でもこのコロナ禍の長い中止と縮小によって、そのサポーターさんだった方の活動への意欲というか、また健康面の心配もあるかと思いますが、ではいよいよ再開しましょうといったときに、そのコロナ前のスタートラインに立てない。その事業を支えていただいていた方がやはりなかなかうまく動けなくなっている、ということを感じます。これは本当に学校によって違うかもしれませんが、私が関わっている、または見聞きしている情報だと、そういうことを聞きます。

これから持続可能な状態でこのわくわくチャレンジ広場事業をしていくときには、やはり本当にある意味姿を変えていかなければいけないのかなとも感じているところです。

それと同時に、地域の方のお力を借りている学校地域応援団の活動もその1つです。これまでは、地域の方と子どもたちとの関わりを大切にすることで、学校支援、子どもたちの実際の学習の中に入れていただいたり、共に活動を楽しんでいただいたり、図書ボランティアなどを学校地域応援団として組んで子どもたちの読書活動の推進にお力を頂いたりということもあったのですが、このコロナ禍の中で子どもとの関わりをやはり控えなければいけない、または教室という場に入れていただくことに大変抵抗がある、そういうことがありましたので、これもまた、では再開、元のように戻していきましょう、となったときに、やはり二の足を踏むというか、「もうできません」という方もいるように聞いておりますので、やはりこの事業を支えていただいた団体がボランティアも含めてどうなっているかなというところがすごく心配であります。

先ほど地域教育課のその他のいろいろな関係の団体との関わりの中で、PTAなどもその1つなのです。PTAはかなり姿が変わっていくのではないかと思いますので、PTAと協賛してやっていたこと、PTAの支援、協力を得ていたことなども、実際始まったときにどの程度動けるのか、また継続できるのかというところ、その辺の連携してやっている団体の姿というところがとても今、気になっております。

**○議長** ありがとうございます。ずっと今日もお話を伺っていて、地域教育課の団体連携ということと、同時にもう1つ、学校との連携というところは強調点にもあったと思うので、先ほど大畑委員さんにも地域教育課の部分でお話をしたところですが、学校連携の相手になる学校のお立場からと、地域の方のお立場からというような形で、お二方にそのまとめをしていただいて合わせるなり、何かそこでもう1つステップを踏

んでいく形がいいのかな、と思いました。いかがでしょうか、地域教育課のところをメインに、ぜひ学校側から風澤さん、お願いします。

**○風澤委員** はい。

**○大畑委員** 立場の違いで見る方向が違うと思うので、いろいろ教えてください。

**○議長** それでは、次は熊谷委員さん、お願いいたします。

**○熊谷委員** 1枚配らせていただきました。まず、資料を頂いたときに各課からきちんと資料を出していただいたことについては、ありがたく思っています。私は昔ある区で指導主事をやっていたとして、教育委員会はなかなか横の連携が取れないと分かっているので、この短い期間でこれだけの資料を出してもらって、事務局のご苦労というのは本当に大変なものであったろうと思って資料を読ませていただきました。

そんな中で、今回、前回とちょっと私、切り口を変えて書いてきまして、今日は縦のラインで考えようと思って書かせてもらいました。

1つは、コロナ禍におけるその事業の経過で各課の様子、それから新しい取組、工夫した点ということで各課の取組ということで書かせていただきました。簡単に言うと、やはりコロナ禍については、国の緊急事態宣言ですとかまん延防止等重点措置に並行して区も動いていて、その中で、各課から出ていましたけれども、区のガイドラインの存在というのは物すごく大きかった。実は学校もそれにのっかって動いていて、この区のガイドラインというベースがしっかりあったからこそ、それぞれの各事業の展開の方向性というのが見えたのではないかなと思っています。

その中でもできる範囲でできることを行うという姿勢が強くうかがえた、というのが1つ。もう1つは、新たな取組で各課でオンラインで取組というのはすごく多く見られたのですが、そのオンラインにとどまらず、オンラインに一步踏み込んだ形での取組も見られたというので、すごくこれもありがたい取組だったなと思って、この2点で今回書かせていただきました。

最後としては、やはり以前に戻るのではなく、新たな形を構築していく必要があるだろうということで書かせていただいて、提言という形で書かせていただきましたけれども、事務局からバージョンアップした提言にしてくださいと言われたので、前回とは切り口を変えて書かなければいけないのかなと思って、変えさせていただきました。

**○議長** 串刺しに言及いただいたというのは、それはもうこの全体のまとめの構成の中で、この記録の前と後に僕ら野川先生とでくっつけるようにしていくものにも活かしていただければと思います。お書きいただいた後半のところは、工藤委員が前回もご指摘くださった部活のところとの関わりもあって、地域の方との協力の中でどうやっていくかというところの議論もあろうかと思っていますので、生涯スポーツ課のところでのまと

めというところを、学校側からという視点で見て、集約をしていただければと思います  
が、いかがでしょうか。

**○熊谷委員** はい。

**○議長** よろしく申し上げます。

皆さん、せっかく力作を書いていただいたのに、この場でたっぷりの時間でご紹介  
いただけなくて申し訳ないですけれども、この後、それぞれの皆さんの書いてくださった  
ものを踏まえて、ご参考になる部分のまとめを作っていただければと思います。

先ほど、どこでもオーケーという竹高委員さんのご担当のところ、決まっていませ  
んでしたので、記録を出していただいた課の中で分担のないところは図書館と博物館の2  
つあるのですけれども、竹高委員さん、両方チャレンジ頂けたりしますか。

**○竹高委員** 頑張ります。

**○議長** 図書館については、それこそ前期にもこの委員でご活躍も頂いておられるので。  
では、ご負担のところですが、そこについてお願いできればと思います。

**○竹高委員** ボリュームと書き方の方向として、やはりきっちりと提言という形で頂き  
たいと、望ましいという方向の書き方をしたほうがいいですかね。最後に皆さんの出た  
意見で提言にするか、意見にするか、報告にするかみたいな形だったとは思うのですけ  
れども、そこら辺のところを、多分そのラインだけきっちり決めておかないと、ある  
方は提言になっていて、私なんかは感想になってしまうといけないと思うので、そこだ  
け決めていただいたら書けるのではないかなと思うのです。

**○議長** 各課の記録というカレンダーの後に書いてくださったところがあって、何をし  
たかについてはここで十分伝わるような表現があったので、僕らがここで言及するのは、  
やはりそのしたことに対する「評価」の部分ですよね。それに対して努力をきちんと僕  
ら受け止めたという評価の部分があって、そこにこの先できたらこういうところを目指  
してほしいという「提言」というのが書けたらいいのかなと思うのですが。

**○竹高委員** 分かりました。では、ボリュームとしては、3ページぐらいのイメージで。

**○熊谷委員** 何かそのプロットみたいなものを頂けないでしょうかね。簡単なものでも  
いいので、この枠でというのは。

**○議長** そうですね。この会議の終わった後にその分量とその構成の仕方というところ  
について、すぐに。

**○竹高委員** このA3のこれがつきますよね、記録が。

**○議長** はい。

**○竹高委員** それで各課にここの部分がどれぐらいつけていいものかによって1ページ  
にまとめるか半ページにまとめるかになってくると思うのですけれども、その枚数的に

というか、それは全然制限なしなのですか。

○事務局 1ページぐらいかと思います。

○竹高委員 制限、たしかありますよね。

○事務局 全体で30ページ以内になればと思います。

○竹高委員 30ページ以内。

○事務局 ただ、資料1がもう2ページ分になるので。

○竹高委員 そうすると、これに1枚つけたら3ページということですよ。

○事務局 資料2の文章が大体2ページだとして、表裏で各課4ページになります。委員の皆さんの評価と課題や提言は、1ページか多くても2ページ以内でまとめるようにしていただくとありがたいかなと思います。

○竹高委員 結局、今まとめて皆さん書いてくださった、そのコロナ禍での取組の後に、各提言を各課につけるのであれば、若干の余裕が出てくる感じですか。最初と最後に取りまとめをつけないといけないですものね。

○事務局 はい。どこまで提言を書いていただくかによるのですけれども、各課にするのか、全体でまとめて提言にするのか。

○竹高委員 全体で提言にするとなると、後ろにつけないといけないから、空白の部分がとても増えて、すごくもったいない形になっていくことですよ。

○事務局 なるほど。では、2ページ以内で書いていただければいいのですね。

○竹高委員 例えば各課の方たちは表裏2ページをきっちり使って説明文をプラスアルファしていただくのであれば、私たちのほうが提言は提言だけでまとめることを考えていくほうがいいですかね、どっちのほうがいいですかね。

○事務局 各課の後につけるのでしたら、今、議長がおっしゃったように、評価、どのように受け止めたかという評価があって、プラス提言のほうがいいと思います。

○竹高委員 そうすると、では、これ全部やった後に提言として私たちが考えたものをまとめていくとすれば、どうなのでしょう。

○事務局 各課の後に、今、分担を決めていただいて、この各課の資料を委員さんたちがどういうふうを受け止めたかという評価を書いていただいて、そこにプラスで提言や課題をどこまで書いていただくかによって分量も変わるかなと思います。提言とか課題は、そこではなくて、また章を変えて書くということですよとまた変わるし、そこは、議長、どんなふうにお考えでしょうか。

○議長 記録と提言は別にしたほうがすっきりするのではないのでしょうか。

そうすると、1つの課に対しての提言というのは1ページぐらいずつでいけばすっきりするのではないのでしょうか。

**○竹高委員** そうすると、私たちの書くボリュームは、1つの課につき2ページ以内、という形でいいということですね。

それで、「評価」と「課題」に分けてまとめる。

**○事務局** どうでしょうか。本日出されたものと先月出されたものを各課の取組について皆さんきちんと書いてくださっていますので、先月出されたものも御覧になって「評価」と「課題」をまとめていただけるとありがたいと思います。

**○熊谷委員** そこも含めて全体のそのページ割り、巻頭言から始まって、最後のまとめまで割り振ったようなものを頂いて。「あなたはここを書いて」という指示を出していただいたほうが分かりやすいと思います。

**○事務局** 分かりました。この会議終了後に正副議長と打ち合わせさせていただければと思います。

**○熊谷委員** 書式の枠もいただきたいと思います。

**○議長** ありがとうございます。先の見えにくい話の仕方ですけれども、それでも出口は見えてきたのかなと思います。書き方については改めてきちりとした形でお示ししたいと思いますので、お待ちいただければと思います。

## (2) 今後の会議の進行について

**○竹高委員** 確認していいですか。

12月9日に教育委員との懇談があるということは、次回に骨組み自体をきっちり決定して、それを教育委員の方たちにお渡しするということですよ。

**○事務局** 通常ですと、提言書の案のような、中間報告的なものをお渡ししていました。そこまでいなくても、それに近いもの、今現在こうなっているというものはお渡ししたほうがいいと思います。

**○竹高委員** そうすると、教育委員にはあらかじめ読んできていただきたいので、12月の頭ぐらいにはお渡ししないといけないということですかね。

**○事務局** 11月の終わり頃にお渡ししたいと思っています。

**○竹高委員** そうすると、次回の会議までにまとめてきて、読み合わせというか、皆さんのご意見を聞きながら、言葉の精査をしていかないといけない感じですかね。

**○鈴木委員** 10月も11月もあります。

**○竹高委員** あと2回ですね。

**○議長** 限られた回数であることも共有できたかと思いますので、10月、11月と劇的な進歩ができるようにまたご協力を頂ければと思います。

**○事務局** では、「評価」と「課題・提言」を、10月25日火曜日までにいただいて、印刷して28日に机上配布するということでよろしいでしょうか。

**○議長** はい、お願いします。

### (3) その他

**○議長** そうしましたら、議事は3の「その他」というところに行きたいと思うのですが、何か委員の皆様から、あるいは事務局からございますでしょうか。よろしいですか。

では、今確認したことを終了後にひとまとめにして皆様のところにお伝えしますので、どのようにするか確認いただければと思います。

では、ほかになければ、事務局にお返ししたいと思います。

**○事務局** 次回は10月28日金曜日の2時から、こちらの教育委員会室で開催します。どうぞよろしくをお願いします。

**○議長** 本日はどうもありがとうございました。

— 閉会 —